

## リフリート工法

分類コード	(工法(システム) 機器・材料)			
関連分類コード				
事例集リンク	(有・無)			
問合せ先	会社名	リフリート工業会	T E L	03-5564-0623
	部署	本部事務局	F A X	03-5564-0624
	住所	〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-24 青海フロンティアビル 15階 太平洋マテリアル内		
	E-mail・URL	E-mail : Post-Kougyoukai@taiheiyo-m.co.jp	URL :	http://www.refrete.co.jp
内容	対象構造物	鉄筋コンクリート構造物 コンクリート構造物		
	項目	塩害・中性化・その他鉄筋腐食による損傷箇所の補修 塩害・中性化に対する予防保全		
	使用機器			
使用実績	1986年より、建築物および土木構造物実績多数			

技術内容【技術の特徴、構成機材、実施フロー、適用事例等】:

【技術の特徴】

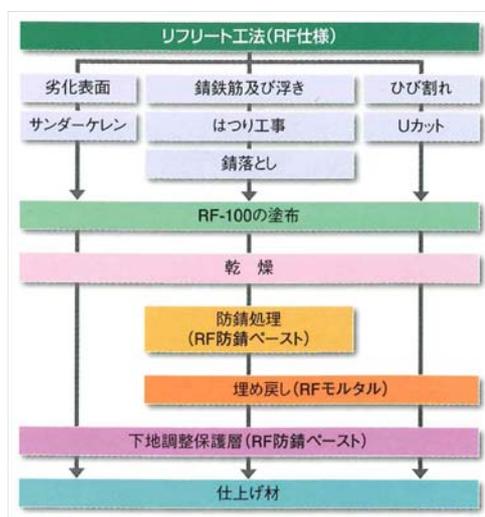
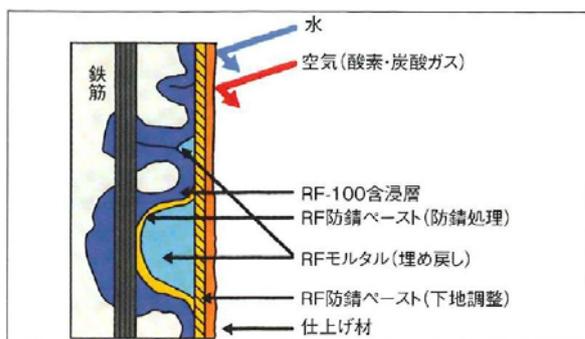
リフリート工法は、けい酸リチウム系表面固化・アルカリ性付与材、亜硝酸リチウム系塗布型防錆材、亜硝酸塩入りポリマーセメント系鉄筋防錆材および断面修復材並びに下地調整材を組み合わせた中性化、塩害および鉄筋腐食を抑制する工法です。

【構成材料】

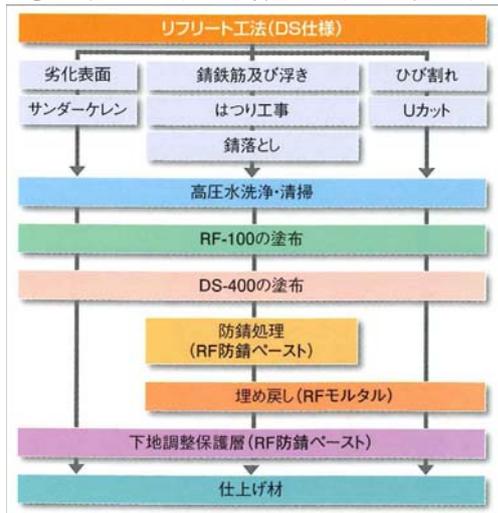
- ①表面固化・アルカリ性付与材：RF-100
- ②塗布型防錆材：DS-400
- ③亜硝酸塩入りポリマーセメント系鉄筋防錆材・下地調整材：RF防錆ペースト、DS防錆ペースト
- ④亜硝酸塩入りポリマーセメント系断面修復材：RFモルタル、RF厚付モルタル

【施工フロー】

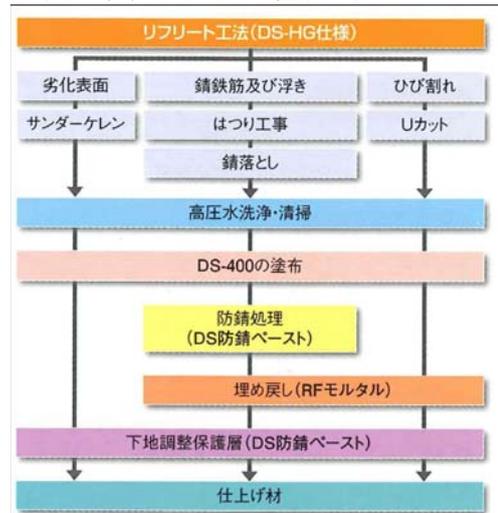
- ①中性化・経年劣化対策仕様（RF仕様）



②塩害・鉄筋腐食仕様（DS仕様）



③内在鉄筋防錆、予防保全仕様（DS-HG仕様）



リフリート工法(RF仕様)の標準的施工手順

<p><b>1. 前処理</b></p> <p>まず脆弱化している打放しコンクリート面、モルタル面、砂落ちのみられるリシン面など、表面の粉状化した部分はワイヤーブラッシングやケレンを行います。</p>	<p><b>2. ひび割れ処理</b></p> <p>コンクリート面にあるひび割れは所定の処理にて補修を行います。</p>	<p><b>3. 錆鉄筋の処理</b></p> <p>浮き部分をはつり、錆びた鉄筋のまわりは入念にはつり、ディスクサンダー、ワイヤーブラシやサンドブラストを用いて錆を落とします。</p>	<p><b>4. 洗浄・清掃</b></p> <p>コンクリート面の処理が終わったら高圧水で洗浄します。</p>
<p><b>5. RF-100の塗布</b></p> <p>RF-100は原液のままローラーブラシまたは刷毛で塗布し、コンクリート面に充分浸透するように均一に塗りかけ塗りをします。露出鉄筋の周囲や、はつり面、Uカット部分は念入りに塗布します。</p>	<p><b>6. 防錆処理</b></p> <p>RF 防錆ペーストを腰の強い刷毛を使って、露出した鉄筋及びその周辺にたたき込むように塗りつけ、一回の塗り厚は 1~2mm となるようにします。</p>	<p><b>7. 埋め戻し</b></p> <p>金ベラまたはタイル用の目地ゴテ等を用い、欠損部分の底まで強く押しつけるように塗り込みます。埋め戻し部分の深さが大きい場合は数回にわけて埋め戻します。</p>	<p><b>8. 下地調整</b></p> <p>その後の下地調整、保護層として、RF 防錆ペーストを全面に塗り、躯体処理を完了します。</p>
<p><b>9. 仕上げ</b></p> <p>リフリート工法の効果を一層持続させるために、上塗り仕上げを行います。</p>			

【施工体制】

施工は、リフリート工法施工管理士制度に基づくリフリート工業会会員が行います。

参考文献(発表論文)	伊部ら：補修後16年経過した鉄筋コンクリート造建築物の調査,第48回セメント技術大会講演集,1994		
	渡部ら：各種仕様で部分補修した鉄筋コンクリートの補修効果に関する長期屋外暴露実験,コンクリート工学年次論文集,2013		
	松林ら：鉄筋コンクリート構造物の部分断面修復における鉄筋腐食抑制に関する一考察,土木学会第68回年次学術講演会,2013		
特許取得	・有	・無	・出願中
資料作成日	2014年5月		